

事業名

春日は一つ、三つの輪

目標

地域と学校の協働を通じて地域人材の積極的な活用を図ること

1. 取組の視点

各校園の課題克服に向けて、地域との協働した取組が効果的に反映するとした方針から、

- 地域人材を積極的に活用することで、学校も地域もより活性化させることができる。
- 各校園が、相互に横のつながりをもつことで子どもの発達段階を踏まえたかわりをもつことができる。

という2点について確認し、取組を推進することにした。

2. 取組の概要

- 地域と協働したフェスタの開催

①春日中学校を核とした「春日ふれあい文化祭」

自治連合会の主催で、2日間にわたって取り組む文化祭。初日は、吹奏楽部などのステージ発表を中心とした文化部の発表。地域住民や幼稚園児も訪れ、楽しいひとときを過ごしていただいた。

2日目の午前には、地域の方々などをゲストティーチャーとした授業を公開しました。約50名のゲストティーチャーが30講座の授業を繰り広げた。



②小学校を核とした「済美っ子祭り」、「大安寺フェスタ」、「済南ふれあい広場」

いずれも地域と学校・PTAが協力して企画・運営にあたる取組。普段の学校での学習を発表する場であるとともに、模擬店を出店したり、地域住民と子どもが交流し合う活動を行ったりするなど、地域コミュニティの拠点といった機能を持ち、地域力の向上を図っている。



3. 成果と課題

地域の方々にとっては、学校に対して貢献していただいている一方、子どもとのふれあいにいきがいを感じて喜びをもって受け入れられている取組となっている。

事業名

春日ステッププラン

目 標

基礎学力の向上と規範意識の育成を図ること

1. 取組の視点

“荒れ”の状況を見せた29年前を機に「地域の子どもは地域で守る」を合い言葉として地域別懇談会を立ち上げるなど、地域と学校とが連携した取組を積極的に展開してきている。現在もなお、学校に対する支援態勢が整っており、本事業ではそれを基盤とした取組を推進した。一方、大きな“荒れ”を見ることはなくなったものの、依然として残す課題として低学力傾向と規範意識の欠如が指摘されている。

2. 取組の概要

(1) 「わかるわかる学習会」の実施

概要；大学生を指導者として、3年生全員を対象に希望を募り、週2回、放課後（16:30～18:00）行う学習会

内容；基礎学力の定着を図るために、マンツーマンによる個別指導「コツコツコース」（10名）と、自学を旨とし積極的に質問することで発展的な学習に取り組む「ドンドンコース」（30名）の2コースに分けた。

効果；普段の授業では学習意欲に欠ける態度を見せる生徒たちですが、目的意識をもって臨むことで、ひじょうによい雰囲気の中で集中した学習を続けることができた。また、このことが契機となって、普段の授業でもそれまでに比べて意欲的に取り組む姿を見せることになった。



(2) “出前で部活”の実施

概要；生徒が保育園・幼稚園、福祉施設に出向き、普段取り組んでいる部活動を通じて、園児や利用者と交流する活動

意図；生徒の自己有用感を醸成する絶好の機会となった。そのことが思春期の中学生にとって自己を見つめ直すこととなり、そのことで落ち着いた生活ができる精神的基盤が養われることをねらった取組である。



3. 成果と課題

この事業を通じて、地域と協働した新しい取組を進めるよき契機となった。生徒の活動を仕組むことで、教師自身も地域との交流の機会を得ることになった。

今後、規範意識の育成という目的を協力者にも理解してもらい、より確かな成果を残していきたい。

事業名

奈良大好きせいびっ子

目 標

済美・奈良の「人」・「もの」・「こと」に関わる学習活動（世界遺産学習）を各学年で実施する。

1. 取組の視点

本校は、奈良市の中心部に位置し、近くには、世界遺産「古都奈良の文化財」に含まれる元興寺や奈良公園にも歩いていける。このような地の利を生かし、地域に残る『人・もの・こと』を題材に、本校では毎年世界遺産学習に取り組んできた。そこで、本事業でこの活動をさらに充実、深化させたい。学年に応じて視点を変えながら、自分の住む済美・奈良の町に主体的、共感的に関わる学習活動を展開し、自分の住む済美や奈良を誇ることのできる児童、じぶんの住む済美の町、奈良の町、そして済美小学校を誇らしげに語ることのできる児童を育てたい。

2. 取組の概要**1年生 「なかよしさんぽ」**

「なかよしさんぽ」をテーマに散歩を通して、学級の友だち、幼稚園の園児、学校のみんな、児童



公園、草や木などとなかよくなった。こうして自分の生活を楽しくしていく力を身につけてきた。

2年生 「わくわくさんぽ」

わくわくしながら済美の町を散歩し、「すてきな場所・人」に出会う学習をした。そして、「すてきな人」自慢大会をした。済美の町よさや人の優しさを知り、より身近に感じるようになった。

3年生 「もっと知ろうよ 済美の町を」

校区にある奈良町は、そこに住む人たちが文化財を存続させたいという強い願いを持ち、様々な

努力をされてきた結果、現在があることを聞き取り学習等から知ることができた。

**4年生 「奈良公園の自然探検」**

身近なところにある春日原生林、奈良公園を春、夏、秋、冬とそれぞれの季節毎に訪れ、違った姿を見せる植物、昆虫、動物等を観察した。そして、自然の仕組みや不思議について考えた。

5年生 「幻の大仏鉄道」

大仏鉄道研究会の方の話や遺構をたどる学習から、身近なところにも未来へ残していきたい「たからもの」が存在することや、そのためには人の力が必要であることを実感することができた。

6年生 「奈良のいいとこ 再発見」

美しい奈良の風景を守り残していくために、今奈良に住む人たちが素晴らしいと思う風景を八つ選んで「新・南都八景」として発信していくことにした。こうして奈良のいいとこを再発見した。

3. 成果と課題

地域を見つめる学習（世界遺産学習）に全学年で取り組むことにより、「済美や奈良の町が好きになった」という評価が、児童でも保護者でも増えた。また、そんなすてきな奈良を守っていききたいという思いが、児童の中に生まれてきている。

しかし、地域には児童の学習活動をより広範に支援することのできる教育力がある。このような地域の協力を得ながら、児童の心を豊かに育て、済美・奈良を誇ることのできる児童を育てたい。

事業名

「チャレンジ大安寺っ子」

目標

読書に親しみ、基礎学力の向上を目指す

1. 取組の視点

本校では、「しっかり勉強する子」「みんなで支え合う子」「やさしくたくましい子」をめざす子ども像として教育活動を展開している。

元気でのびのびと学校生活を送っている子どもたちであるが、基本的な生活習慣の確立や自分の思いを正しく相手に伝える力の不足などの課題も残されている。

従来から、学校だけでなく、子どもを中心にして家庭（地域）・学校が連携していくことの大切さを啓発し、協力を得ながら取り組んできたが、本事業を契機にさらに地域の方々との協力関係を深め、校区の子どものよりよい成長を図ってきたい。

2. 取組の概要

「チャレンジ大安寺っ子」では、ボランティアの方々の協力により、夏休みに7回の図書室開放を実施したり平日の業間休みに図書室を開放したりしていただき、多くの児童が読書に親しむ機会が広がった。



図書室の開放だけでなく、簡単なゲームをしたり読み聞かせをしたりしながら子どもたちを楽しませていただいたりした。

また、「お話の会」の方々を招いて全クラスがお話を聞く日には、どの学年・クラスでも集中して熱心に聞き入る子どもたちの姿が多く見られるようになってきた。

図書に親しむ機会の増加

とともに、ボランティアの方々による環境整備で、図書整理・ブックカバーかけ・子どもの喜ぶ図書の選定など積極的に活動をしていただくことができた。

3. 成果と課題

子どもの好む書籍の購入や環境整備のおかげで、子どもの図書に対する意識も向上し昨年より図書の貸し出し冊数も大きく伸びた。

また、話を聞くことや自分の思いをうまく伝えられない子どもたちも、読書に親しんだり集中して話を聞いたりする場面の増加で、落ち着いて行動できるようになってきた。このことは、今後の学習面へも好影響をもたらすものと思われる。次年度以降も本事業を継続し、地域や保護者の方々の理解と協力を得ながら、学校への支援を得ていきたい。



事業名

ハートフル大安寺っ子

目標

地域で多くの人との交流を通し、豊かな心を持つ児童の育成

1. 取組の視点

本校では、「しっかり勉強する子」「みんなで支え合う子」「やさしくたくましい子」をめざす子ども像として教育活動を展開している。

元気でのびのびと学校生活を送っている子どもたちであるが、基本的な生活習慣の確立や自分の思いを正しく相手に伝える力の不足などの課題も残されている。

従来から、学校だけでなく、子どもを中心にし、家庭（地域）・学校が連携していくことの大切さを啓発し、協力を得ながら取り組んできたが、本事業を契機にさらに地域の方々との協力関係を深め、校区の子どものよりよい成長を図ってきたい。

2. 取組の概要

「ハートフル大安寺っ子」

生活科や総合的な学習の時間を中心に、多くの「人」との関わりを大切にしながら、体験学習や出会いを通して交流を深めた。

1年生では、校区幼稚園児や地域のお年寄りの方々との交流を深めた。2年生は「こどもゆうびんきょく」を開き、学校内と他学年の子どもや教職員との手紙のやりとりでなかまの輪を広げただけでなく、日頃「ふれあい夢スクール」でお世話になっている方々へも感謝の気持ちを伝えたりすることができた。手紙を受取っていただいた



地域の方々も、とても嬉しそうな顔で互いの手紙を見せ合ったりして喜んでいただくことができた。



3年生では、「農家の暮らし」や「昔の暮らし」で、地域の方にゲストティーチャーになっていただき、体験しながらの学習活動も実施した。また、子どもたちが校区内のおうちを訪ね回り直接インタビューした学習では、たくさんの方が協力してくださり、子どもの頑張っている様子を学校へも伝えていただけた。

4年生は夜間中学の方や車イスバスケットチームの方から、5年生は身近な環境を調べようと多くの方の協力で学習を進めた。

6年生は、平和集会で学習したことを全校児童や保護者の方・地域の方に発表し、子どもたちはもちろん大人の方にも感動していただくことができた。

3. 成果と課題

地域住民の積極的な支援で、子どもたちの学びも深まり、これまであまりなかった地域の方々との交流も自然な形で行うことができた。

コーディネータ・地域の方々・保護者・学校の連携をより深めながら、十分な話し合いを重ね、次年度も本事業を発展させ、豊かな心を持つ児童の育成に努めていきたい。

事業名

「瞳きらきら言葉いきいき」済南っ子読書活動

目標

読書環境と読書活動の充実による豊かな心と言語力の育成

1. 取組の視点

本校では、これまでも始業前に読書タイムを設けたり、地域の方に読み聞かせに来てもらったりして、読書活動の推進に取り組んできた。児童は、少しずつ読書に親しむようになってきたが、まだまだ定着や習慣化するまでには至っていない。

また、児童の生活の様子から、言葉が足りずにトラブルを起こすなど言語力に弱さがみられる。

そこで、児童の心を耕し、言葉の力を付けることによって、良好な人間関係を確立できるよう、読書環境の充実とともに、全校一斉読書やおはなし会、学校図書館の活用など読書活動の活性化を図り、児童の豊かな心や言語力の育成に取り組みたい。

2. 取組の概要

今年度も、全教職員で共通理解し、始業前の10分間を読書の時間と位置づけて、全校一斉読書に取り組んだ。

読む本については、図書室や学級文庫、家から自分で用意するよう指導したが、全校児童が読みたい本を用意し、楽しんで読書するためには、本の補充など読書環境の充実が必要なため、低・中・高学年部で児童の興味・関心にあった本を購入して学級文庫の充実を図った。



各学級では、本の紹介や展示等を工夫し、児童が本に興味をもち、積極的に本を読むよう取り組

んだ。

1年生から4年生を対象とした「おはなし会」は、地域のボランティアの方に、月1回程度、各学級1時間ずつ行っていた。事前に、ボランティアの方より聞いている読み聞かせ内容を児童に知らせて興味付けをするなど、担任とボランティアが連携して読書への関心を高められるよう常に工夫している。「おはなし会」では、読み聞かせの他に手遊びなどもあり、児童は、毎回楽しく集中して聞くことができた。

児童の図書委員会でも「おはなし会」を計画し、全校集会で読み聞かせを行った。スクリーンに挿絵を映し出し、図書委員が順番に読み進め、楽しいお話を全校で一緒に聞くことができた。



3. 成果と課題

全教職員が共通理解して、全校一斉に取り組んだ結果、児童は進んで本を読むようになってきた。また、おはなし会では、「次はいつ。どんなお話。」と次回を待ち望む声が多く聞かれ、読書への関心も高まってきた。特に、低学年では、購入した学級図書を、ほぼ全員の子が読むことができた。また、図書委員会が全校への読み聞かせをするなど、新しい取組も実施できた。

少しずつではあるが、児童の読書意欲が向上するとともに、進んで挨拶する子や言葉遣いに気をつける子もみられるようになり、心や言語の力についても成長していることを実感している。

今後も、さらに学校図書館の活性化など読書指導に力を入れ、読書活動を推進していきたい。

事業名

子育て支援—心弾ませ、一緒に遊ぼう育ち合おう—

目標

生き生きと活動し、みんなで楽しさを味わう幼稚園

1. 取組の視点

友達や保護者、地域の方々と共に、様々な感動体験をすることで、人と人とのつながりを深め、心豊かにいきいきと活動する幼児に育つことを願い、以下の活動を計画し取り組んだ。

2. 取組の概要

○「ふれあい広場」

親子、地域の方と一緒に園庭で縄跳びをしたり、各保育室で魚釣りや輪投げ、カプラ遊びをしたりした。また、「スキップ楽団」の方々の愉快的話と楽しい音楽を聞いた。いろいろな遊びのコーナーでは、親子で魚釣りに挑戦したり縄跳びをしたりして、楽しく遊ぶ姿が見られた。



また、スキップ楽団の音楽は、幼児たちがよく知っている曲がたくさんあり、一緒に大きな声で歌ったり手拍子をしたり、突然たくさんのシャボン玉に驚いたり感動したりなど、楽しい時間を過ごすことができた。

○「カプラ遊び」

未就園児保育「うさぎ組」の幼児たちや「ふれあい広場」の時に親子で遊んだりした。また、全園児で積み上げたカプラを園内作品展で展示しました。地域の方



年青年クラブの方たちとのふれあいの日にも一緒に遊んだ。子どもたちは何度もカプラで遊ぶ経験を通して、いろいろな積み方があることに気づき、友達と挑戦し楽しんでいる。

○「園内環境整備」

春、園内に花をいっぱい咲かせて進級したり新入園児を迎えたりしたいという願いから、親子・地域の方と一緒に花苗等を植えた。また、2学期早々、親子・地域の人と一緒に園庭の草ひきをした。夏休み中草がいっぱい生えていましたが、みんなの力でするとあつと言う間にきれいになった。



○「地域の学校・保育園との交流」

済美小学校との交流は以前から行っているが、交通量が多く危険なため、春日保育園との交流が途絶えていた。春日中学校を通らせてもらうことで、今回実現できた。また、中学校の出前クラブでソフトテニスを幼児達は体験することができた。

3. 成果と課題

様々な活動を通して、幼児はたくさんの人と一緒に活動する楽しさを、保護者はわが子の表情から子育ての喜びを味わうことができた。また、地域の方々と関わり顔見知りになることで、わが子を見守ってもらえているという安心感を持つことができた。地域の方々には子育ての大切さや支援の必要性等を感じていただいた。幼稚園がほっとする居場所になるように、今後も地域の方々とふれあう活動や子育て支援の充実に向けて取り組んでいきたい。

事業名

心も体も豊かに健やかに

目 標

園児も保護者も心弾み、未就園児親子や地域の方々も親しみをもつて集う明るく元気な幼稚園づくりをする

1. 取組の視点

現代社会は、地域のつながりの希薄さが言われている。また、子どもたちの実態として、読書離れや運動遊びや外遊びの不足が大きな課題であり、当園でも、同様の傾向がある。そこで、地域の方々の支援協力をいただきながら、親子でたくさんの絵本やお話に出会い親しむ経験や、季節の草花を育てる経験、体を思い切り動かして遊ぶ楽しさを積み重ね、心身ともに健やかで、心豊かな子どもを育てていきたいと思う。

園児、保護者、地域の様々な年代の方々が触れ合い、共に心弾む時間を過ごせる、活気あふれる幼稚園づくりを目指している。

2. 取組の概要

毎週火曜日に、親子絵本の日がある。親子絵本の日には、降園30分前から、絵本の部屋で、親子で絵本の読み聞かせを楽しむ。読み聞かせにはボランティアの方が来てくださる日もあり、楽しいプログラムに、絵本の楽しさと共に、ボランティアの方への親しみが深まっている。



読み聞かせのあとは、園児が選んだ絵本を保護者が読み聞かせを行う。親子で肩を寄せ合ったり、

おかあさんの膝にのせてもらったりして1冊の

絵本を見ている。帰る前に、親子で好きな絵本を2、3冊選んで持ち帰る。事業でたくさんの新しい絵本を購入したので、絵本を選ぶ楽しみが増えた。

11月には、園児、未就園児親子が保護者有志



や地域ボランティアさんと一緒に球根と花の苗植えをした。

未就園児親子にとって、園での

様々な体験と触れ合いは、園生活への安心感や期待を高めた。

体を動かして遊ぶ楽しさを味わう取組として、キッズサッカーモデル園に登録し、年間8回の指導を受けた。サッカー遊びだけでなくいろいろなボール遊びも楽しむ。参観の保護者の方からの声援に園児たちは意欲が高まり、元気一杯駆け回る姿が見られた。

**3. 成果と課題**

地域の方々の支援をいただきながらの園の整備や園芸活動で、地域の方々との触れ合いができた。また、図書の充実により、絵本の楽しさを共有し心豊かな時間を過ごしたり、体を動かす楽しさを味わったりした。今後も、様々な触れ合い活動を充実させ、みんなの笑顔が弾む園づくりに取り組みたいと思っている。